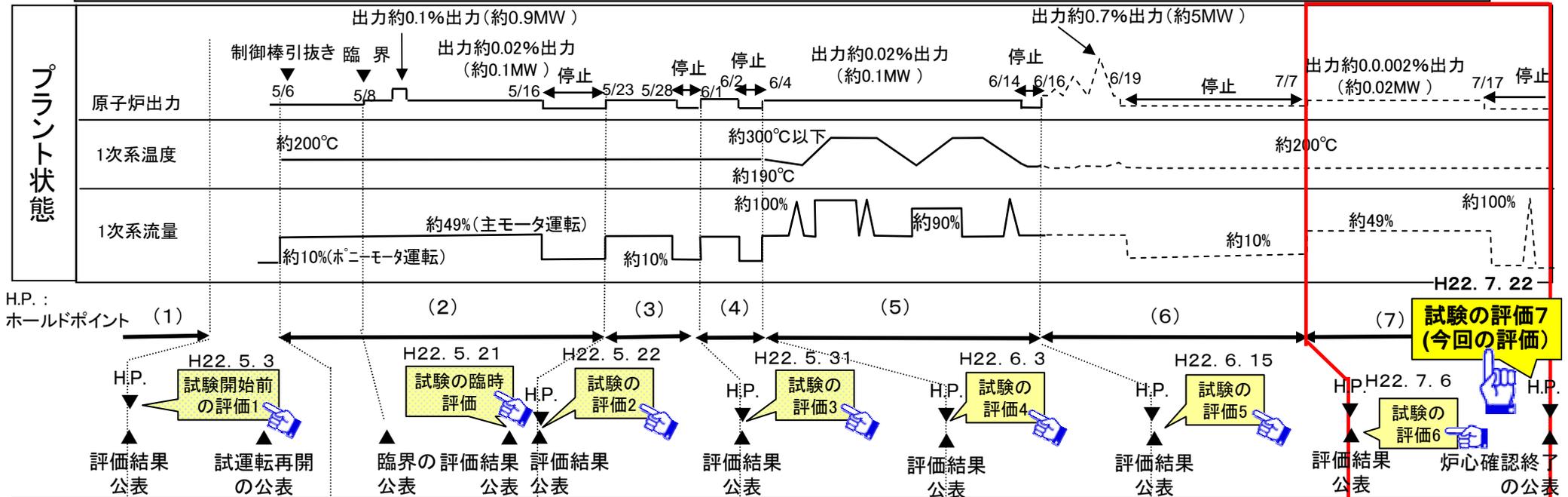




II-1 炉心確認試験の実施結果

炉心確認試験は、平成22年5月6日に開始し、平成22年7月22日に終了。



終了した確認項目・試験または、今後実施する主な試験項目	a. 設備に係る点検 b. 保安管理に係る点検	●中性子計装特性確認 ●核出力校正確認 ●空間線量当量率確認	●制御棒値確認	●過剰反応度測定試験 ●反応度停止余裕測定試験	●流量係数評価 ●温度係数評価 ●新型ナトリウム温度計特性評価 ●崩壊熱評価	●フィードバック反応度評価 ●放出放射性物質挙動評価	●1次主冷却系循環ポンプモータ特性確認(終了) ●ナトリウム純度確認(終了) ●ナトリウム放射化量評価(終了) ●アルゴンガス純度確認(終了) ●圧力損失変化評価(終了) ●燃焼係数評価(終了) ●未臨界度測定法適用性評価(終了) ●炉内中性子源効果評価(終了)
実施した確認項目と今後確認する試験目的と内容	(1) 試運転再開に向けた最終確認として安全確認を実施し、問題ないことを確認することによって、試運転再開の準備が整っていることを確認した。	(2) 制御棒の効き方の確認を行い、使用前検査に必要なデータを採取した。また、管理区域境界等の線量当量率等の測定を行った。	(3) (2)に引き続き制御棒の効き方の確認を行い、使用前検査に必要なデータを採取した。	(4) 炉心の安全確認(核的制限値の確認)を行い、使用前検査を受検した。過剰反応度や反応度停止余裕を確認し、十分な余裕をもって原子炉を停止し、未臨界状態を維持できることを確認した。	(5) 冷却材の温度及び流量の変化の影響で反応度がどの程度変わるかを測定することにより、炉心に係る研究開発データを採取する。	(6) 出力を上昇させ、その変動を減衰させる原子炉固有の反応度フィードバック効果を測定し、炉心に係る研究開発データを採取する。	(7) 原子炉を未臨界状態にしながらか制御棒の挿入パターンを変化させて、高速炉における未臨界度測定法の研究開発データを採取する。また、ナトリウム純度の確認を行う。
次に進む判定基準	・試運転再開に当たって、原子炉の起動に必要な点検事項がすべて完了していること。	・試験の結果が判定基準を満足していること。 ・試験が安全に完了していること。	・試験の結果が判定基準を満足していること。 ・試験が安全に完了していること。	・試験の結果が判定基準を満足していること。 ・試験が安全に完了していること。	・試験が安全に完了していること。	・試験の結果が判定基準を満足していること。 ・試験が安全に完了していること。	・試験の結果が判定基準を満足していること。 ・試験が安全に完了していること。